

はじめに

本年9月、『北海道建青会』の第20回全道会員大会が、宗谷建設青年会の主管で稚内において開催されました。

「地域ビジョン創造への挑戦！」と銘打って、“新エネルギー”をメインに基調講演、パネルディスカッション、新エネルギーキャラバンと盛りだくさんのメニューでしたが、皆様の御協力により、成功裡に終了することが出来ました。誠にありがとうございました。

宗谷は様々な可能性を秘めている地域だと思います。

日本最北端の宗谷丘陵には、日本最大級の風力発電基地が12月に完成します。これまでは厄介者でしかなかった“強い風”が、クリーンエネルギーとして新たな価値を見出され注目されるようになりました。今回の全道会員大会のプログラムもこの“風”をきっかけに企画されたものです。

また、私たちにはこの“風”とともに注目しているものがあります。

それは稚内と目と鼻の先にある、ロシア・サハリン州です。現在サハリン1・2の石油・ガス開発プロジェクトが進行中であり、人口わずか60万人の地域に3兆円を超える投資がなされようとしています。

サハリン南部のプリゴドノエ地区では、現時点で世界最大の天然ガス液化プラントが建設中です。

そこで、是非とも巨大プロジェクトが展開されているサハリンを全道の建青会の皆さんにも実際に眼で見て、肌で感じてもらいたいということで、全道大会の記念事業として「サハリンミッション」を企画した次第であります。

ロシア・サハリンもこれまではどちらかと言うと暗いイメージしか持たれていなかったように感じます。

サハリンの現状はどうなっているのか？ 我々に出来ることはないのか？

このミッションを通じて、北海道の隣国であるサハリンに対して、新たな認識を持っていただければ幸いです。

10月18日(火) 晴れ

北海道建青会「全道会員大会」の記念事業として「サハリン2」プロジェクト(液化天然ガスプラント・石油タンカー用新設港湾)視察を目的とするサハリンミッションに全道各地から一般参加を含む30名(平均年齢40.3才)がそれぞれ期待と不安「百聞は一見に如かず」を胸に稚内国際ターミナルへ9時00分に集合した。

ターミナルには、稚内建設協会の関係者や宗建会石塚会長をはじめ、多くの会員が見送りに来ていた。

ミッションの参加者全員が揃ったところで、結団式を行った。



宗谷建設青年会 石塚会長挨拶

因みに、今回のミッションには北海道建青会から23名(空知経営研究会、萌志会、釧路建親会、オホーツク二建会、帯広二建会、宗谷建設青年会)一般7名(稚内土木現業所、稚内市役所、(株)副港開発)の総勢30名が参加した。



結団式で富田団長よりサハリンでの注意事項を受ける。



ミッション参加者達

この後、出国手続き中に、宗建会後藤事務局長の手荷物が泥酔したロシア人に持ち去られるハプニングが発生したが、程なく荷物を発見し大事には到らなかった。

事前渡航のサハリン情報の中で、一般住宅の玄関には6個もの鍵が掛けられていると言う話もうなずけた。

10時00分 定刻で稚内を出航(船は「アインス宗谷」)。天気は良いが、風が強く海上での波の高さは3m前後。この時期だからある程度の覚悟はしていたが、先が思いやられる気がした。

乗客は、日本国籍39名、ロシア国籍21名、その他外国籍9名、合計69名で159km(5時間30分)の航海へ向け出航。それぞれが座席スペースを確保したところでサハリン航路名物@100円ビール(サッポロ黒ラベル350ml)(免税自動販売機)が参加者全員に配られた。



天気晴朗なれど波高し!

船内で税関申告書を記入する。6月の事前調査で要領をマスターしていた宗建会の三谷副団長が参加者全員に記入方法を説明する。申告書の記入内容が6月よりも簡素化され、所持金や、携帯品の記入欄が無くなっていた。



出向して30分、船が上下左右に大きく揺れだした。乗船後、直ちに配られた100円ビールを飲み干すこともなく、メンバーの多くが横になり、波がおさまるのを待っている状態であった。



出航後1時間半くらいで携帯電話が繋がらなくなった。

同じ船に、マレーシアの青年が乗船していた。話を聞くと、彼らは日本通運に雇用されていて、世界各地の地下資源開発の現場を転々としているらしい。今回はフィリピン人3名、マレーシア人4名の総勢7名で行動しているようだった。

これから4ヶ月間プリゴロドノエの工事現場で働くのだという。

出発前に、日本で買った腕時計や帽子（網走刑務所のロゴ入り）、日本を旅行中に撮影した写真を見せてくれた。とても気さくな好青年であった。



富田団長とCTSDのキャンプへ向かうマレーシアの青年

船は定刻の15時30分〔日本時間〕 17時30分〔サハリン時間〕時差2時間。

予定通りコルサ港に入港した。防波堤のない港内の水は薄黒く濁り、接岸しても船が不規則に揺れている状態であった。



接岸後、軍服のような出で立ちをしたロシアの税関職員が乗船し、船の入国審査を行った。

乗船客の下船許可が下りたのは接岸後30分を過ぎていた。



18時3分〔サハリン時間〕下船開始

下船後バスに乗り込み、税関へ。

6月の事前調査で訪れた宗建会メンバーは、前回、珍味の持ち込みにより税関チェックに引っかかった経験から、今回は手荷物に食品を持たないようにしていた。

作戦は見事成功し、全員すんなりと税関をパスしたと思われたが、今回初参加の宗建会メンバー（関専務）の手荷物の中にあつた魚肉ソーセージが検査に引っかかり、「その場で食べる」と言われ、説明にすつたもんだした。

結局は通してくれたのだが、相も変わらず税関の係官によって検査の厳しさに差があるようだ。

19時15分税関を出発する頃には、辺りがすっかり暗くなっていた。

20時00分頃、ガガーリン・ホテルに到着。

到着後、部屋で一休みする暇もなくホテル2階のレストランで夕食を取る。

事前訪問の時には、食事のメニューが判らず、余分に注文してしまった失敗があつたため、今回は通訳の幸子さんに、ウエートレスとの打合せなどをお願いした。

トマト・きゅうり・オリーブの実が入つたサラダ、スープに魚（キンキ）のホイル焼き、バルチカビールにウォッカとまずまずのメニューに満足し、楽しい夕食であつた。

最後に参加者全員の自己紹介を終え「何よりも安全第一と節度ある行動」を周知してお開きになつた。



20時30分ホテル内のレストランで夕食

10月19日(水) 晴れ

今回、大勢の日本人がこのホテルに宿泊したためだろうか、6月の訪問時の朝食にはなかった白米がバイキングのメニューに含まれていた。しかし米に合うおかずが見あらず、定番の黒パンとサラミと甘いジュースで軽く朝食を済ませる。コーヒーは相も変わらずインスタントであった・・・。



朝の冷え込みで、ホテル周辺の花壇には霜が降りていた。

9時00分バスに乗り込みサハリン第二の都市(人口3.8万人)でユジノサハリンスクから83kmのホルムスク(真岡)へ向かう。



ユジノサハリンスク駅前のレーニン像